

## 令和6年度建設経済常任委員会行政視察研修報告書

- 1 目 的 本市のまちづくりや産業振興に資するため
- 2 実施日 令和6年11月6日（水）～8日（金）
- 3 視察地 富山県富山市  
福井県大野市  
石川県小松市
- 4 視察内容 富山市「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」  
大野市「道の駅越前おおの荒島の郷」  
小松市「木場潟公園 東園地 木場潟 さとするべ」
- 5 参加者 委員長 小堀 勇人  
副委員長 岡村 浩雅  
委 員 高瀬 一徳  
委 員 加藤 朋子  
委 員 若見 孝信  
委 員 角田 憲治  
執行部職員2名  
事務局職員1名

---

### 富山県富山市

視察日 令和6年11月6日（水）

#### 1 富山市の概要

富山県の県庁所在地で、同県の中央部から南東部に位置する。平成17年4月1日、富山市、上新川郡大沢野町、大山町、婦負郡八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村による新設合併によって現在の富山市が発足した。この合併により、全国の都道府県庁所在地の中では2番目に広い総面積を持つようになった。また、富山県の29.24%の面積を占め、ひとつの市町村が県に占める面積の割合としては全国一である。市域は富山県域に対して南北にわたっており、日本海と南側の県境いずれにも接している。

人口 409,075人 面積 1241.70km<sup>2</sup>  
議員定数 38人 会派 8会派

## 2 視察内容

地方特有の「車に依存した暮らしとまちの拡大」による課題は、「人口減少と超高齢化」によりさらに深刻化していく。富山市は「多くの地方都市と同じく、車での生活に特化し、居住密度が薄っぺらで、車がないと自由に移動できないまちでは、30年後生き残れない」との問題意識を持つに至った。

富山市のコンパクトシティの注目点は、「都心地区と公共交通沿線居住推進地区」を設定し、その地域内に人口の約42%が居住する目標をたて、実行する点にある。2023年時点で40%が達成している。また、まちづくりの進め方も規制の強化ではなく、誘導的手法が基本、市民がまちなか居住か郊外居住かを選択できるようにする。市内の恵まれた鉄軌道網を活かし、公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくりを推進。さらに、公共交通幹線の沿線に地域拠点を整備し、全市的にコンパクトなまちづくりを推進と行った特徴がある。

具体的施策の3本柱としては、富山ライトレールの運行、路面電車の南北接続、お出かけ定期券の発行などの公共交通の活性化。

都心地区・公共交通沿線地区での住宅供給や新築・購入を支援する公共交通沿線地区への居住誘導。

グランドプラザ、TOYAMAキラリ、トランジットモール社会実験などの中心市街地活性化である。

## 3 所感

この視察先を選んだ理由は、氏家駅東口のまちづくり、蒲須坂駅周辺整備が念頭にある。

人口規模、財政規模が違う富山市の事業をそのまま真似することはできないが、まちづくりに対する意識や手法、考え方は大いに参考になった。

本市も核となる氏家駅、蒲須坂駅があり、それに接続する路線バス、デマンドタクシーを中心に展開が必要だが、居住を誘導する内容とはなっていない。持続可能な地域作りを目指すのであれば、一定地域への居住の誘導は必要と思われる。

公共交通の活性化に関しては、車を持たない喜連川地域に居住している人が氏家駅を利用する場合には、バスでの移動が最も効率的である。本市ではバス路線維持のために多額の公費を投入しているが、もっとバス利用率が上がるための施策も必要と感じた。

中心市街地の活性化については、地域の拠点となる建築物が必要である。氏家駅前、蒲須坂駅前に地域のランドマークにもなる建物の建設が望まれる(市役所、図書館、子育て施設等)。

まちなかには、芸術作品が散在し、花もたくさん植えられるなど、非常に精練された、美しい街並みが印象的だった。

本論とは外れるが、富山市の担当課職員の説明は慣れているせいもあってか、非常にわかりやすく、内容も熟知している印象を受けた。また、資料もわかりやすく、

特に事業の効果は必ず数値で示し、効果の有無がすぐ理解できた。本市の職員の皆様も是非真似をして頂きたいと感じた。



## 福井県大野市

視察日 令和6年11月7日（木）

### 1 大野市の概要

福井県内の市町の中では最大の広さを持ち県面積のおよそ5分の1を占める。市街地はかつての城下町の面影を強く残し、越前の小京都として知られる。市のブランドキャッチコピーは「結の故郷（ゆいのくに）」で、生活や地域が結びつきながら、ゆっくりと営んできた大野を表したものである。城下町としての町並みを残した観光地として知られ、天空の城である大野城趾や春分の日から大晦日の間に七間通（しちけんどおり）で開かれる七間朝市などが知られている。名水を活かした日本酒や越前そば、でっち羊羹などの名産もある。

本市の姉妹都市である茨城県古河市とは、姉妹都市の関係にある。

人口 30,969人 面積 872.43km<sup>2</sup>

議員定数 16人 会派 5会派

### 2 視察内容

道の駅越前おおの荒島の郷は、日本百名山「荒島岳」の麓にある、福井県最大級の道の駅であり、令和3年4月にオープンした新しい道の駅である。屋内施設では地元食材にこだわったグルメを豊富に揃え、屋外施設には北信越最大の車専用屋外宿泊施設「RVパーク」やカヌー体験池があり、自然を満喫できる施設になっている。

また、福井県内初出店となる人気アウトドアブランド「monto-bell」のショップがあり、大野市はmonto-bellと「地方創生に向けた相互連携・協力に関する協定」を締結し、アウトドアスポーツやレジャー支援の拠点となっている。

施設内外やお土産コーナーを見学し、昼食もとらせて頂き、様々な観点から勉強させて頂いた。

### 3 所感

今回訪問した道の駅越前おおの荒島の郷は、令和8年春に福井県内全線開通を目標とする「中部縦貫自動車道」建設に合わせ、中京圏、北陸圏に対する交通の利便性が向上することから設置に至った。中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋 株式会社指定管理者として受託している。

この道の駅の特徴は、近隣でアウトドアスポーツが盛んなことから、カヌーやクライミングが楽しめる施設を併設している。また福井県内初出店となる montobell が隣地に出店、キャンピングカー用の RV パークが 15 区画用意されている。

道の駅のメインとなる農産物などの販売所は「荒島マルシェ」と名付け、「大野市道の駅産直の会」会員が、地元の新鮮野菜や山菜、キノコなどを1年を通じて提供している。

内陸に位置し海からは距離があることで海産物の販売には向かないことや、中山間地でとれる野菜が限定されてしまうことから売上の増加に苦慮しているのが見受けられた。また、雪が多い地方であることから冬季の来客が見込めないと行った課題がある。その中で、地元産米粉を使ったバームクーヘンや舞茸ラクレットバーガー、里芋の煮っころがしが具になっているおにぎりなどここでしか味わえないメニューづくりも勉強となった。

他にも、防災道の駅の認定がされている。建物裏にある付帯施設には、飲料水、非常食、毛布などを備蓄する防災倉庫を備えている。また、停電時でも72時間分の電力をまかなえる自家発電機の設置があり、万が一の際は市民の受け入れが可能とのことである。今まで災害時の活用事例はないとのことだが、単なる観光誘客だけでなく多機能の道の駅が全国的に増えている印象を受けた。

今回の研修成果を本市の道の駅きつれがわの運営に活かして参りたい。



## 石川県小松市

視察日 令和6年11月8日（金）

### 1 小松市の概要

小松市は、建設機械メーカーのコマツの企業城下町であり、関連企業や工場も多く、重工業が発達しており、北陸工業地域の一翼を担っている。また、歌舞伎の勧進帳の舞台となった安宅の関や那谷寺、栗津温泉など、自然や文化の面にも恵まれている。

人口 105,803人 面積 371.05 km<sup>2</sup>  
議員定数 22人 会派 3会派

### 2 視察内容

木場潟公園は石川県が開設・運営する都市公園（広域公園）であり、木場潟を囲むように中央園地、北園地、西園地、南園地と4つの園地が整備されている。また、南加賀地域の観光交流拠点としてさらなる魅力向上と利用拡大を図るため、東園地を整備し、令和5年4月にオープンした。

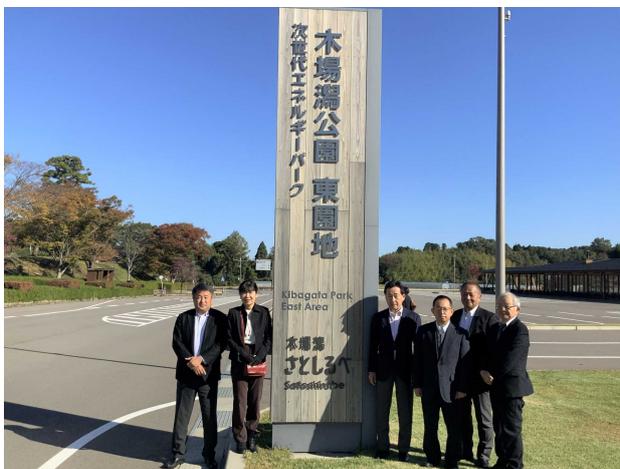
その中の東園地「木場潟 さとしるべ」は里山ゾーンとなっており、「次世代エネルギーパーク」として、里山の再生と再生可能エネルギーの活用を通じて、「学び」、「遊び」「体験」をテーマとした体験型施設である。

農業体験ハウスでの収穫体験やバイオマス燃料の活用によるSDGsの達成に向けた取り組み等を視察する予定であった。

### 3 所感

今回の視察内容は、農業人口増加のための農業の収穫体験や本市でも実施しているバイオマス燃料の活用等を予定していたが、園内に熊が出没したため園内での視察を取りやめ、園内の外観からの視察のみとした。

説明を頂きたかったのが非常に残念であった。



木場潟公園東園地さとしるべ 外観